

農山漁村地域マネジメント特別コース

コースの教育理念と教育目的 コースのディプロマ・ポリシー コースのアドミッション・ポリシー
コースのカリキュラム・ポリシー

コースの教育理念と教育目的

愛媛県の農山漁村は農林漁業の低迷により過疎高齢化が進行しています。農山漁村地域マネジメント特別コースは、疲弊しつつある農山漁村の再生をめざして、「地域の課題を自ら発見し、それを分析し、さらに解決の方向性を指し示すことが出来る人材」「循環型社会づくりを目指しつつ、地域に根ざして生活することに自信と愛着を持つことが出来る人材」「困難な状況にあってもくじけることなく、自ら業を起こす気概とスキルを持つ人材」を地域の後継者・担い手及びそのリーダーとして育成していきます。

卒業後の進路

卒業後の就職先は、農山漁村地域マネージャーとして活躍すべく農林漁業者、自治体職員、農林漁業団体職員、第三セクター職員、民間会社員、新たな起業家等に進んでいます。また、大学院へも進学しています。

取得可能な学位

学士(農学)

取得可能な資格

高等学校教諭一種免許状(農業)

[ページの先頭へ戻る](#)

コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

1. 農山漁村地域の再生と活性化、および地域における起業に必要な専門知識と技術を習得している。(知識・理解)
2. 農山漁村地域における諸課題を発見し、その課題を論理的に分析でき、循環型社会の構築の観点から、その解決策を見いだすことができる。(思考・判断)
3. 上記の諸課題を解決するために、地域の担い手・リーダーとしての自覚を持ち、協調性と高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。(関心・意欲、態度)
4. 自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。(技能・表現)

[ページの先頭へ戻る](#)

コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。
もしくは次のいずれかに該当している。(知識・理解)
 - A. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの課題を解くことができる。
 - B. 農業・生物資源または工業、商業などに関する専門的な知識・技術を有している。
 - C. 高等学校で選択履修した教科・科目について、実践的・体験的学習から得られた知識・知見・技術を有している。
2. ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。(思考・判断)

3. 地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関する様々な問題に関心を持ち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもっている。(関心・意欲、態度)
4. 自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。(技能・表現)

[ページの先頭へ戻る](#)

コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

農山漁村地域マネジメント特別コースは、農山漁村再生の地域リーダー育成をめざし「地域学系列」「生物資源学原論系列」「起業論系列」からなる専門教育科目を次のカリキュラムの特徴によりカリキュラム構築を行うことをカリキュラム・ポリシーとします。

1. 『哲学－実学』、『座学－現場』のバランスを重視
時代背景を見極め、「『農』の本質」、「『地域』とは何か」等を理解する。その理論を携え「現場」に学びつつ、最終的に現場に貢献できる「実学」を修得する。
2. 課題発見・解決型プロジェクト研究
新しい授業形態として、地域の課題・テーマ・ケースに対するプロジェクト研究を多くこなすことで、課題発見とそれを解決できる能力を養う。
3. 長期インターンシップ等
長期インターンシップを取り入れ、県下の普及職員や農家・農業法人、地場産業・JA等各種団体や自治体など、農林漁業に関わるそれぞれの立場から実態を学ぶ。
4. 独自で体系的なカリキュラム
1年次からコース独自の科目を配置し、2年次からは多くのコース独自科目を設置し、また、客員教員や指導員として地域で活躍している多数の個人・企業、または自治体の関係職員などから本教育コースへの協力体制を整える。

カリキュラム・マップ

農山漁村地域マネジメント特別コース・カリキュラムマップ (PDFファイル 282KB)

[前のページに戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#)